

# 農耕儀礼と郷村

岩井 宏實

はじめに

一 レンゾ

二 ダケノボリ

三 雨乞い

おわりに

## 論文要旨

大和においておこなわれる農耕儀礼のうち、レンゾ・ダケノボリ・雨乞いを取り上げて考察したものである。レンゾは他の畿内村落でおこなわれるハルゴトに該当する農家の春休みである。近世以来その多くが社寺の縁日、法会の日と合体し、一見社寺行事に見えるが、本質的には春の訪れる時期に、山登り、川遊びなどとして田の神を迎える行事であった。

また、ダケノボリも特別の信仰をもつ霊山に登って、季節の花のもとで宴を開き、降臨する農耕の神と神人共食して、豊穰を予祝する行事である。

夏に入ると早魃にはさまざまな方法で雨乞いがおこなわれる。そのなかで大和においてとくに顕著なのは貫い水と雨乞踊である。この雨乞踊は中世末に田楽と念仏踊が習合した風流踊である。

これらの儀礼の伝承された基盤について、共通して見られることは、中世末期から近世にかけて畿内村落を中心に形成された郷村である。したがって、大和においては農耕儀礼の主たるものは、一集落・一村単位を基盤とすることは当然に考えられるが、村落の枠を越えて数ヶ村が連合した郷村が伝承基盤であることが明らかである。